

「将来都市像（案）」について

まちづくりに込める想い（基本理念）

当市を取り巻く社会経済の変化などの将来予測を踏まえつつ、行政職員における第6次総合計画の評価検証の結果とともに、市民の声アンケートやグループインタビュー、まちづくり意見交換会等を通じて聴取した市民の意見を受け止め、2040年の「ありたい姿」をキーワードで整理した上で、その根底にある想いを5つの共通事項として取りまとめました。

さらに、将来にわたり大切にしたい「上越らしさ」を重ね合わせ、まちづくりに込める想い（基本理念）を、次のとおり導き出しました。

上越市ならではの 快適で幸せな暮らし

【説明】

全国有数の豪雪地帯である当市では、日々の暮らしのすぐそばにある自然に畏怖の念を抱く一方、四季折々の美しさに生きる喜びを感じ、その中で育まれた恵みをいかした食を堪能するなど、季節に寄り添った当地ならではの暮らしを、あまた享受してきました。

また、先人たちの努力の積み重ねにより、上杉謙信公の居城であった春日山をはじめとした当地ならではの奥深い歴史や文化、その精神性が、連綿と受け継がれるとともに、私たちの中には、雁木に象徴される雪国の暮らしや古から当地の生業を支えてきた農業を通じて、思いやりや支え合い、助け合いの精神が培われ、今もなお宿っています。

こうした「上越らしさ」といえる、多彩なまちの魅力と人々に宿る他者を思う心は、この地に住む人々にとって、普遍的であり大切なものとなっています。

一方、現代社会に目を向けますと、急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、核家族化や地域コミュニティの希薄化が進み、加えて、社会経済環境の急激な変化とともに価値観・ライフスタイルも多様化しています。そうした中、例えば、高度情報化の進展や様々なサービスの外部化の拡大は、生活の利便性を飛躍的に向上させ、自由な暮らしをもたらしましたが、近年のコロナ禍では、他者とのかわりの少なさが孤独感や孤立感につながるなど、メリットが一瞬にして潜在的なデメリットに転じてしまうといった想定外を前提として、将来展望を見出しついでにいかなくてはならない、難しい時代となっています。

こうした先行きの見通しが困難な時代だからこそ、上越ならではの普遍的な価値を大切にしながら、「Well-being」(※)の考え方にあるような、市民の幸福感を高めること、同時に、だれもが活躍できるような環境をつくっていくことが、まちの成長の礎となるものと考えます。成熟社会にあっても、新たな潮流を取り込み、先進性、先駆性を備えた、人を中心とした快適なまちの仕組みと形を創っていくことが大切と考えます。

※「Well-being」(ウェルビーイング)とは、身体的、心理的、社会的に良好で、すべてが満たされた状態にあること。健康、幸福感、つながりが良好な状態にあることを意味しています。

そこで、社会・文化・自然の豊かさや人情味あふれる気質・風土を将来にわたって引き継ぎながら、全ての市民が他者との結びつきを実感し、誰一人取り残されることなく、安心感や幸福感、満足感に包まれながら、自分らしく健やかに暮らし、のびやかに学び、人とまちの成長につなげていく、「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」の実現を基本理念として決めました。

将来都市像

人口減少等の変化が進む成熟社会の中で、「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」を実現していくためには、市民の暮らしと成長を支える確かな基盤（仕組みと形）を確立していくことが必要と考えます。

「上越らしさ」といえる、まちの多彩な魅力や人々の共助の精神を身近に感じられる中で、誰もが自らの生き方、暮らし方、働き方に安心感や満足感を実感できるよう、市民の暮らしの質を着実に向上させていかなければなりません。

あわせて、若者や女性、高齢者、外国人といった多様な市民一人一人が、夢や希望に向けて、学び、挑戦し、活躍できる環境を、みなで手を携え、共に一つ一つ創っていくことが大切になります。

市民・事業者・団体・地域など、これからのまちづくりに関わる全ての方々が、まちの未来に思いを抱き、共通の目標の下で行動するべく、第7次総合計画の最終年度となる8年後の2030年に上越市が目指す将来都市像を次のとおり掲げます。

暮らしやすく

希望あふれるまち

～○○○○○○○○○○～

※キャッチフレーズを検討中。

「暮らしやすく」とは・・・

各種インフラ、産業、教育、医療、福祉、環境、文化の全てにおいて、社会環境の変化に、柔軟かつしなやかに対応し、誰一人取り残されることなく、自分らしい暮らしができるよう、生活の質の向上を図り、安心感や満足度をより高めていきます。

「希望あふれる」とは・・・

地域の魅力や資源、産業や人材などまちの力を市民や地域が一丸となって高め、いかしていく中で、地域に対する愛着や誇りが生まれ、市民一人一人が夢や希望を持って、暮らし、そして、次代を担う子どもや若者が帰ってきたくなくなるようなまちを目指します。